

1	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15100001	超ロバスト計算パラダイムの構築	杉原 厚吉 (東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授)	B
<p>(意見等)</p> <p>個々の研究者の研究テーマについては、順調に研究成果が得られているが、「分野ごとの個別のロバスト計算技術を横断的に整理し、分野の境界を超える共通で普遍的なロバスト計算原理を抽出することによって、ロバスト計算のためのアルゴリズム設計パラダイムを構築することである」とする所期の目的の達成については、具体的な新しい研究成果がまだ得られていない。重要な研究課題であるので、目的達成に向けた研究代表者のより一層の強力なリーダーシップが望まれる。この分野共通のロバスト計算のためのマニュアル作りとともに、大学院授業の立ち上げ、セミナーの開催、国際会議を立ち上げるなど、情報交換の促進に努力しているので、「分野の境界を越えた共通の原理の抽出」についての具体的な研究成果を今後期待したい。</p>				
2	課題番号	研究課題名	研究代表者	評価結果
	15100002	知能の力学的情報処理モデルの展開	中村 仁彦 (東京大学・大学院情報理工学系研究科・教授)	A
<p>(意見等)</p> <p>質の高い学会誌論文や国際会議発表を多数行っている。人工知能学会の優秀論文賞を受賞するなど、当初の計画通り順調に成果を上げている。機械知能を力学的情報処理によって実現するためのモデル仮説を構築することを目的とし、それをヒューマノイドロボットの実験と人間モデルを用いたシミュレーションによって実証しようとしている。本研究では機械知能の力学現象に焦点を当てているが、このような機械知能は、知能というよりむしろ技能といった側面が強いように思われる。当初の研究目的では、哲学、認知心理学、発達心理学の研究まで視野に置きたいとしているが、そのためには、この技能のモデルから知能のモデルへとさらに研究を発展させることが必要になるだろう。本研究は、技能のモデルの第一級の研究成果であると高く評価できる。</p>				